

トリコフィトン・トンスランス感染症とは

2001 年ごろから、柔道やレスリングなどの競技者に**白癬菌（カビ）感染症**が増加しています。**トリコフィトン・トンスランス感染症**が正式名称ですが、**新型水虫菌、たむし、マツト菌、カビ**などとも言われています。

保菌者はすばやく治療を開始し、他の部員は感染予防のための自己管理を徹底することが大切です。

症状と治療法

体部白癬・・・顔、首、上半身に、特徴的な赤い発疹が現れます。早期にきちんと治しておくことが大切です。そのまま放置すると発疹は消失しますが、菌が頭髮（毛包）の中に入ってしまう、保菌者になってしまいます。



皮膚科（真菌専門医が望ましい）を受診し、「格闘技の選手でありたむしの可能性がある」と伝えま
す。真菌用の塗り薬を処方に従い湿疹に塗ります（最低 1 ヶ月続けないと必ず再発します）

外用抗真菌薬

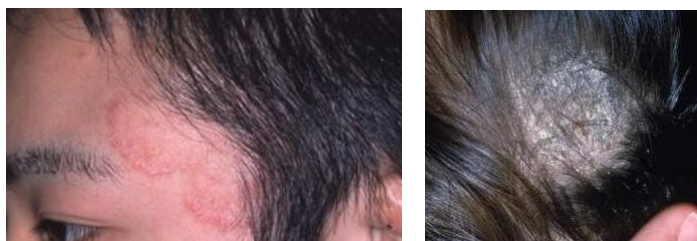


外用抗真菌剤は、1～3％くらいの割合で”かぶれ”の副作用があります。
元の症状より悪化した場合、症状がいつまでも改善しない場合は、
医師の診察を受けてください。飲み薬に変更する必要があります。

頭部白癬・・・フケが増える、カサブタができるなどの軽い症状から、膿がでて脱毛を生じる重
い症状まであります。子供に感染すると症状が重くなる傾向があります。

イトリゾール、ラミシールなどの飲み薬（抗真菌薬）を服用します。**塗り薬では治りません。**

ブラシ検査が陽性の場合、症状がなくても頭髮に菌が寄生している可能性が高く、内服での治療が必要です。



内服抗真菌薬



抗真菌薬を 6 週間内服します。根気よく治療しましょう。
肝機能障害などの副作用がでていないか、血液検査で確認します。
医師の指示に従って通院してください。服薬終了後に菌が消滅したか、
確認のためのブラシ検査を行います。

なぜ感染する？

感染者との体の接触が原因とされていますが、練習場所や試合会場の畳やマット、衣類やタオル、寝具を共有することからの感染も考えられます。

競技者だけでなく、**その家族や親しい友達にも感染する**可能性があります。

一番大きな問題は

トングランス感染症は、かゆみなど症状が現れにくく、体部の発疹は、自然治癒することもあります。また、塗り薬を使って治療しても、感染を繰り返すことにより、発疹などの症状がなくても、頭皮や髪の毛に菌が残る**無症候性保菌者**となっていて、**気づかいうちに他の部員や試合相手に移してしまう可能性があります。**

柔道やレスリング競技者の間では、白癬感染症は珍しいことではないという風潮になっていますが、最近では競技者の家族や友達への感染、また年少者への感染例も増えてきており問題となっています。年少者に感染すると重い症状が出る傾向があるにもかかわらず、強い薬が使えません。このまま感染の拡大が防げなければ、やがては柔道・レスリングの競技者の減少につながるでしょう。

安心して競技に打ち込むために

○掃除

髪の毛に付着した菌は半年生存します。毎日、練習場や部屋を掃除機で清掃しましょう。

○消毒

練習場や練習器具は、毎日、消毒液を噴霧（スプレーや噴霧器を使用）して消毒しましょう



○シャワー

練習・試合の直後になるべく早く身体と頭髮を洗浄しましょう。3日に1回は抗真菌剤入りのシャンプーを使用してください。洗髪後はドライヤーでしっかりと乾かします（真菌は湿気を好みます）
すぐにシャワーができない時は、消毒液を吹きかけたタオルで身体を拭きましょう。



持田製薬のフルフルシャンプー
ドラッグストアで購入できます
リンスは抗菌効果がありませんので、
髪が軋む場合は、他のコンディショナー等を併用して構いません

○処置・治療

すばやく適切な対処を行うのが大切です。疑わしい皮疹を見つけたら、練習を中止して、スポーツ医学研究センターに相談するか、皮膚科（神奈川はた皮膚科クリニック）を受診しましょう。傷からの菌侵入速度が速いので、肌に傷や怪我がある場合は注意しましょう。